

司法試験 合格者の皆さん

カッコ内は修了年、または在学年

増井 達也さん (令4) 都合によりお写真は掲載致しません	山田 大樹さん (令5) 都合によりお写真は掲載致しません	梶野 瑠里子さん (令6) 都合によりお写真は掲載致しません	水鳥 祐太さん (令6) 都合によりお写真は掲載致しません	鳥飼 良行さん (令6) 都合によりお写真は掲載致しません
朝健 司さん (令6) 都合によりお写真は掲載致しません	佐藤 智哉さん (未修3年次) 都合によりお写真は掲載致しません	堀江 元彦さん (既習3年次) 都合によりお写真は掲載致しません	吉田 奈央さん (既習3年次) 都合によりお写真は掲載致しません	

合格者インタビュー

初の法学部早期卒業制度で、3年次で学部を卒業し、法科大学院既卒者コースに進みました。学部入学時から法学を志していたので、1年でも早く、法科大学院で学ぼうと思ったからです。

ただ、法科1年目の前期は苦勞しました。周りは自分より長く法律の勉強をしている人ばかり。また、教員との質疑応答を通して学びを深めるソクラテス・メソッドなど、法科ならではの授業にも戸惑いました。予習復習をしっかりと、自分に何が足りないかを確認することで、実力をつけていくことができました。

水鳥 祐太さん

会って相談できる弁護士に

専修大学法科大学院は少人数で、教員との距離が近く、学生の質問や要望にも熱心に答えてくれます。自主ゼミで司法試験の過去問を添削してもらい、それを繰り返すことで理解を深めていきました。同年代の仲間とともに勉強したことも、刺激になりました。

学部入学から司法試験合格まで約5年半。一年一年はつらかったけれど、振り返ればあっという間でした。あまり深刻にならずに、その時の自分に合った選択を重ねて、ここまで来ることができました。これからは、法曹を目指したときに描いた「気軽に会って相談できる弁護士」を目指していきます。

社会心理学者 小坂井氏が講演

“常識”と“矛盾”について語る

人間科学部で開講されたトスピーカーに迎えた講演「社会意識論2」 演会「矛盾の効用 常識(嶋根克己教授)の一端を崩すための方法論」が、11月22日、生田キャンパスで小坂井敏晶氏をゲストで行われた。



「タブーに真摯に向き合い、考えることが大切だと学生に語り掛けた小坂井氏

小坂井氏は在任で社会心理学を研究、昨年末までパリ第8大学で准教授を務めた。新たな日本人論を構築し、「民族という虚構」「矛盾と創造」など著書多数。

冒頭、嶋根教授は小坂井氏と小中学校の同級生だった縁が今回の講演につながったエピソードを紹介し、「社会、人間とは何か、意識は何にとらわれているのかを考えるいい機会にしてほしい」と開講意図を述べた。

小坂井氏は「常識から逃れて新しい知見をもつことが大切だ」と述べ、常例話を交えながら、常識と矛盾について語った。

学生からの質疑に応じる小坂井氏



最後に自分自身の思考に問いかけた。最後に自分自身の思考

「アプローチとアプロウチ」というテーマについて考察し、「自分自身と向き合うこと」とも難しいことだ。自由、平等、正義、性のタブーに真摯に向き合い、考えることが大切だ」と話した。

学生からは「求めている答えこそが問題だ」という結論には驚いた。「日本は支配、抑圧されていないのに、西洋化が続いているのはなぜか」という意見、質問が寄せられた。

小坂井氏からは「差別と格差はなくならないが、その中で人はどのように生きていくのか。正解はないかもしれないが常識にとらわれず自分の頭で考えてほしい」と結んだ。

商・高橋裕教授

政策フォーラムでSDGの意義を解説

内閣府経済社会総合研究所(ESRI)主催の政策フォーラムが11月8日、オンラインで開催され、商学部の高橋裕教授がパネリストとして登壇した。

同フォーラムは、学者や有識者を招き、経済政策上の重要な問題について専門的見地から意見を交わしている。87回目の今回は「システムダイナミクス×AIを用いた将来展望」をテーマに、人口・環境・国際経済に関

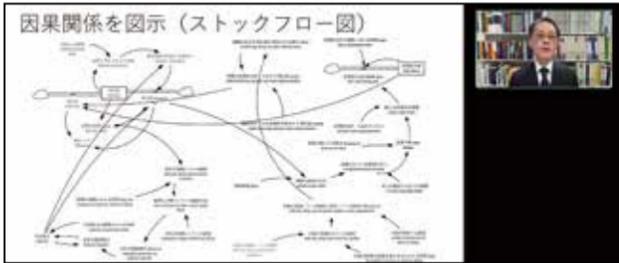
する試算結果の報告に続き、各パネリストが発表を行った。

コンピュータシミュレーションを用いた手法の研究やIT関連の技術活用が専門の高橋教授は、議論の核となる「システムダイナミクス(SD)」の基本的な考え方や今日的意義を解説した。

地球規模の複雑な課題に取り組むためにはシミュレーションの利用が効果的である。SDは、複雑なシステムをコンピュータシミュレーションで分析する手法で、検討対象となるシステムの特徴と効果的な介入方法を知ることができる。

高橋教授は「多様な当事者がいる今、不確実を織り込んだ対応が必要」と指摘し、さまざまな想定を織り込んで予測を行うモンテカルロ・シミュレーションの手法でリスク評価することの意義を説明した。当日の録画は、内閣府のサイトで公開されている。

オンラインで講演する高橋教授



文・米村教授が受賞

日本アニメーション学会賞

米村みゆき文学部教授が、「日本アニメーション学会賞2024」を受賞した。

受賞したのは、専修大学研究助成として取り組んだ書籍『映像作家宮崎駿(視覚的文学)』として『アニメーション映画』(2023年・早稲田大出版部)。

日本のアニメーションの中でも特に人気の高い宮崎駿監督作品について、さまざまな資料を駆使した精緻な分析により、宮崎駿監督の脚色の手法を初めて明らかにし、「視覚的文学」として位置付けた。

11月2日、北海道で表彰式が行われた。米村教授は日本近現代文学、アニメーション文化論が専門。



自熱の法廷劇



付属3高の生徒が参加して行われた公開模擬裁判

付属3校が公開模擬裁判

専修大学付属高校、専修大学松戸高校、専修大学北上高校の生徒58人が参加した公開模擬裁判(エクステンションセンター主催、東京弁護士会協力)が11月16日、神田キャンパスの法廷教室で行われた。公開模擬裁判の開催は、今年で28回目。裁判官、検察官、弁護人役を付属高校と松戸高校生徒が、北上高校の生徒が刑務官と廷吏役を担当した。

専修大学教育学会 第72回大会を開催

(佐々木重人会長の第72回大会が11月24日、神田キャンパスで行われた。正会員に加え、準会員の教職課程を履修する学生ら約300人が出席し、教育現場の課題について意見を交わした。

今回は、信州大学理事・事務局長で元文部科学省大臣官房審議官の安彦広希さん(平4法)による講演会と、会員による研究会(実践報告)が行われた。

安彦さんは、GIGAスクール構想などデジタル化の背景を解説。現在の学習指導要領

のポイントを情報活用力を挙げた。次の改定に向け、子どもが自ら学ぶように環境を整え、複雑・多様化する学校現場に対応することが課題となる」とまとめた。

研修会は「令和の学校教育」がテーマ。高校で教壇に立つ若手教員3人が、取り組みを発表した。

訃報

田中貞夫氏(たなか さだお) 名誉教授・元経済学部教授 9月17日、82歳で死去。1980年から2012年まで在職。専門は化学。

古川純氏(ふるかわ あつし) 名誉教授・元法学部教授 12月7日、83歳で死去。1988年から2012年まで在職。専門は憲法。